

# 札幌市勤務医協議会ニュース

発行 札幌市勤務医協議会  
札幌市中央区大通西 19 丁目  
札幌市医師会館内

## 巻頭言

### 今後の“札幌市勤務医協議会”の 発展をめざして

会長 鶴間 哲弘

今年も早いもので6月も下旬となりました。6月5日～9日には第33回 YOSAKOI ソーラン祭りが、6月14日～16日には北海道神宮祭（札幌まつり）が行われ、初夏の訪れを感じました。この時期は、湿度も低く気候的にも穏やかで札幌の一番良い時期かもしれません。6月21日は、1年のうちで最も昼の時間が長くなる「夏至」です。今年の6月21日は、「鬼宿日（きしゅくにち）」「大明日（だいみょうにち）」「月徳日（つきとくにち・がとくにち）」の3つの吉日に加え、「夏至」が重なりました。鬼宿日は、「二十八宿（にじゅうはっしゅく）」といわれる天文学を基にした暦の「鬼宿」にあたる日のことです。鬼宿日の「宿」とは家のことを指し、この日は「鬼が家にいるため、外を出歩いてても邪魔をされることなく、何事もスムーズに行うことができる」とされています。大明日とは、暦注の七箇の善日の一つで、「天と地の道が開き、世の中の隅々まで太陽の光で照らされる日」という意味があり、「太陽の恩恵を受けて、全ての物事がうまくいく」とされる何事にも縁起のいい日です。月徳日も、暦注の七箇の善日（ななこのぜんにち）の一つで、何をすることも支障がなく、どんなこともいい結果につながるといわれている吉日で、「その月の福德を得られる」とされています。夏至は、1年の中で太陽が出ている時間が最も長い日で、太陽のエネルギーが最も強くなることで、エネルギーが陰から陽へとプラスの方向へと傾き始める転換期であるとされ、アクティブかつポジティブになりやすい時期であるといわれています(All About ニュースより引用)。今年の6月21日は、これら4つの吉日が重なる“スーパー開運日”でし

た。皆さんは、何か新しいことを始めて幸運を導き出せたでしょうか？ 最近の国内に目を配ると、“終わりが見えない円安”、“物価高”、“少子化”・・・と、日本の国力が弱くなっているニュースが毎日聞こえてきます。医療界においても、新型コロナウイルス感染症の5類移行後、患者数の回復は芳しくなく、また、さまざまなコスト高に伴い病院経営も厳しい状況が続いています。病院の経営状況は勤務医の待遇にも影響を及ぼすものであり、今後、勤務医の声が重要となっていくと思われま

す。現時点(2024年6月)での札幌市医師会会員数は4090名。内訳は、A-1会員（個人が開設した病院または診療所の管理者）302名、A-2会員（医療法人が開設した病院または診療所の管理者）938名、B-1会員（前2号以外の病院または診療所の管理者）64名、B-2会員（前3号以外の会員）2786名です。B-2会員、つまり、札幌市医師会会員の68%が勤務医となっています。一方、札幌市勤務医協議会の会員数(2024年6月)は177名。内訳は、A-1会員0名、A-2会員20名、B-1会員4名、B-2会員153名となっています。日本医師会は、令和5年度より、医学部卒業5年目まで入会金・会費の無料化にしました。これに伴い、札幌市医師会も医学部卒業5年目まで無料化となりました。それも一因とは思いますが、札幌市医師会会員数は若干の増加となっています。しかし、札幌市勤務医会会員数はここ数年毎年減少傾向にあります。札幌市医師会会員の68%を占める勤務医のより多くの先生方に当会に入会していただけるように、現在、新たな方策を練っております。発表までには、もう少し時間がかかりそうですが、だいぶ、具体化してきております。勤務医の懇親および情報交換の場として、さらには、今後、益々、病院経営は厳しくなっていくと思われる状況下における勤務医の主張発信の会として、札幌市勤務医協議会を盛り上げていきたいと考えております。令和2年からコロナ禍で開催を自粛していました「札幌市勤務医協議会・札幌市病院協議会合同ゴルフ大会」を、今年

は5年ぶりに8月4日(日)、札幌北広島ゴルフ倶楽部で開催予定です。競技ゴルフではなく、楽しいenjoyゴルフを目指していますので、多くの先生方のご参加をお待ちしています。コロナ禍が開け、これからも多くの企画を打ち立てていきたいと思っています。今後とも、先生方のご協力をよろしくお願いいたします。(JR札幌病院)



## 所 感

会計部長 占部 和之

今年度より会計部長に選任していただいた占部です。以前、天使病院勤務時に幹事をさせていただいた際は十分な貢献ができませんでした。今回は少しでも鶴間会長はじめ皆様に協力できればと考えています。

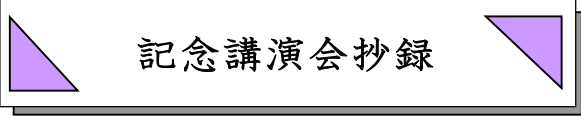
以前書いた原稿を見直してみるとラグビーやトラampolineやらと、おおよそ医療とは関係ない内容ばかりで、各医師会活動に尽力されている先生方と比べて如何に漫然と仕事をしている事かと感じます。

各医師会雑誌の中では、どうしても本年度4月からの医師の働き方改革に関する内容が多くなっています。各先生方が意見、方針を示しており、少しずつ前に進んでいることが実感されます。ただ実際、医師の長時間労働が医療を支えている現実、医師の総仕事量が、減るところか医療ニーズの変化や医療の高度化で更なる増える可能性、また当直業務、翌日の外来業務、病態の急変などという職務の特殊性、専門分野の偏在化、地域格差など解決、改善には大きな壁がありそうです。時間外労働の上限規制を設ける中で、労務管理の重要性が徹底されつつあるのは前進です。昔はいつ仕事が終わって帰宅したかの時間を考えることなく、終わったら帰ると

いう感じでしたから。

こういう事を書くとも私も年寄りになったことを実感しますが、我々が大学病院の各教室に入局して研究生になった頃は、どの科でも随分長い時間大学内にいました。時給で換算するとコンビニバイトより遥かに低賃金だと同期で笑っていた記憶があります。ただ、有意義だったことが多く、むしろ今は今で更に大変なことが多いはず。当院でも札幌医大の4年生が2週間の実習に来ているのですが、自分達の4年生の頃とは知識量が比べる気にもならないくらい雲泥の差です。我々が病院に長くいたのは単にその頃、病院を出ると連絡方法がなかった側面もあります。2年目に出張に出て、ポケベルが初めてあつたそういう時代でした。これもまた、広義の道具による働き方改革なのでしょう。

総仕事量が減らないという前提で考えると、基本方針で述べられている通り、タスクシフト・シェアの推進は必須かと思われます。以前の原稿には、ラグビーを例えに医療がposition毎に役割が明確な事が多く、団体競技である割に結局、個の力に頼らざるを得なくなる事が多いと書きましたが、今後は職員皆が複数のポジションをできる事が望まれます。その中では我々でもトータルの仕事量よりも、クレーム、無理難題への対応が何倍も疲れるのは皆さんの経験している通りです。我々に対する以上に医師以外の職員への過度な要求、カスハラを目にする事は多いと思います。今や医療従事者に限らず、学校の先生から熊駆除のハンターに至るまで働きづらくなりました。幸い、我々特にある程度の年齢の医師の方が、他の病院職員より毅然とした対応ができると考えます。リスペクトすべき患者様、お客様、お互い様(神様ではない)への対応のタスクシェアは、たくさんのタスクシェアをしてもらいたい職員にとってのスポッター(スポーツ全般における補助者、特にトラampolineで台の4隅に立って、選手が台から外れて落下しないように見守る係)になり得るかもしれません。結局、トラampoline用語で終わってしまいました。(札幌南1条病院)



## 記念講演会抄録

『スポーツに多いケガとスポーツ医学サポート体制』  
—ジュニア世代からトップアスリートまで、近年の動向も含めて—

札幌医科大学 保健医療学部  
理学療法学第二講座 教授  
札幌医科大学附属病院  
スポーツ医学センター長

渡邊 耕太 先生

### 本邦のスポーツ医学サポートの歴史、組織

我が国のスポーツに対する医学サポートは、1964年の東京オリンピック開催を契機に活発化した。スポーツ人口の増加に伴い、スポーツ医学サポートの重要性と需要が高まった。いわゆるスポーツドクターの養成組織は3つあり、日本体育協会（現日本スポーツ協会）は1982年に、日本整形外科学会は1986年に、日本医師会は1991年にそれぞれの会員に対するスポーツドクター認定活動を開始した。対象とする範囲は重複するがそれぞれに特徴もあり、日本スポーツ協会の認定医は競技スポーツをカバーするのが特徴で、競技運営やチームドクターとしての活動にもかかわることを想定している。一方、日本整形外科学会の認定医は運動器のスポーツ傷害をカバーするのが特徴であり、日本医師会の認定医は健康スポーツが主な対象である。

競技スポーツ選手の強化拠点として、2001年に国立スポーツ科学センター（JISS）が開設された（東京）。国がアスリートの強化・医科学研究・診療の拠点を設けたことはターニングポイントとなり、オリンピックなど国際競技会における日本人選手の活躍が進むこととなった。さらに、2008年にはその隣接地にナショナルトレーニングセンター（NTC）が開設された。現在これらの施設で、オリンピック・パラリンピック強化指定選手がトレーニングや医科学研究、医療と科学サポートを受ける体制が整っている。東京のセンターのみでトレーニングを行うことの困難な競技については、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点が設置されている。北海道にはスキージャンプ、バイアスロン（札幌）、アイスホッケー（苫小牧）、スピードスケート（帯広）の4

拠点がある。これらの強化拠点でも医学サポートが行われている。

2011年にはスポーツ基本法が公布・施行された。スポーツ基本法の第一条には、「この法律は、スポーツに関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに・・・」と書かれており、国を中心としたスポーツ推進の責務が明確化された。2015年にはスポーツ庁が文部科学省の外局として設置され、スポーツ基本法に掲げられた「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」を実現するため、スポーツの振興に取り組んでいる。スポーツの政策・運営中央団体としては、日本スポーツ振興センター、日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会が主なものである。日本スポーツ振興センターはスポーツ庁所管の法人であり、前述のJISSやNTCを運営するほか、国立競技場などの運営や学校の管理下における災害に対する災害共済給付事業を担っている。日本スポーツ協会では国民スポーツ振興、スポーツ指導者の育成、国際スポーツ交流、スポーツ医・科学の研究、国民スポーツ大会やスポーツイベントの運営などの諸事業を行っている。日本オリンピック委員会は主に日本代表選手の国際総合大会派遣、競技力強化、オリンピックムーブメント推進を担っている。北海道においてスポーツ団体を統括しているのが北海道スポーツ協会である。加盟団体は各種競技団体や各地方スポーツ協会、学校体育団体である。医科学については、スポーツ科学委員会が研究や道民アスリートの健康管理に関わっており、筆者も委員会に所属している。

### トップアスリートやジュニア世代に対する医学サポート

トップアスリートの医学サポートの一例として、2022年に開催された北京オリンピック冬季大会を挙げる。筆者は日本選手団本部ドクターとして帯同した。この大会の特徴は何といても新型コロナウイルス感染症対策であった。開催日の2月4日が迫るにしたがって国内外の感染者数は激増し、海外遠征中の選手にも感染者が出たなどの情報が刻々と入ってきた。現地組織委員会は連日の検査体制と外部との隔絶（いわゆる“バブル”）を厳格に行った。日本

選手団においても症状者や陽性者を隔離と個別ケアを行い、感染による一人の競技棄権者も出すことはなかった。一方で、公式練習において2名の手術を要する外傷者が出た。これはスキー・スノーボード競技会場の寒冷で難易度の高いコース設定のほか、技の難易度が年々高くなっていることも要因と思われた。今後の国際競技会医学サポートでは、感染対策とともに頭部外傷、脊椎損傷などの重症外傷への対応がより重要になってくると考えられた。

上記のように、日本代表クラスの医学サポート体制は近年充実してきた。しかし、ジュニア世代など、トップクラス手前の選手に対する医学サポート体制はまだ十分とはいえない。2023年にスポーツ庁はこの課題に取り組むべく、“地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業”を全国公募した。北海道からの申請が採択され、7月に北海道スポーツ医・科学コンソーシアムが北海道、札幌市、北海道スポーツ協会、札幌医科大学をコア団体として設立された。このコンソーシアムには北海道大学や北翔大学のほか、競技団体や医療施設、職能団体が参加しており、さらなる拡大が予想される。今後は本コンソーシアムを中心としたトップを目指すアスリートのサポートが展開されることが期待される。

### 医学教育における近年の動向

2022年に医学生の学修目標とその内容等がまとめられた“医学教育モデル・コア・カリキュラム”が改訂された。これは文部科学省において約5年に1回改訂版が公表される。今回の改訂版の特徴の一つはスポーツ医学に関する項目が多くなり、「方略・評価の事例」において、スポーツ医学が独立した事例として取り上げられたことであろう。これからの医学生にはスポーツ医学の学修が必須となるため、スポーツ医学を教育できる人材の養成・確保が必要になる。スポーツ医学は内科や整形外科、婦人科、小児科、精神科、リハビリテーション科など多くの臨床医学のほか、運動生理学や栄養学、薬理学などの基礎医学を含んだ総合医学であり、その対象とする範囲も広い。スポーツ医学の素養を持った医師がアスリートのみを対象とするのではなく、スポーツ医学を手段として広く国民の健康維持・増進に貢献する未来像が期待される。

## 第36回札幌市勤務医協議会 定時総会について

### 令和5年度札幌市勤務医協議会事業報告

月日	事業内容
5.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回役員会（ハイブリッド）</li> <li>第1号 第35回札幌市勤務医協議会定時総会 関連事項について</li> <li>第2号 令和5年度産業医研修会について</li> <li>第3号 ゴルフ大会（札幌市病院協議会と合同開催）について</li> <li>第4号 その他：勤務医協議会ニュース (No.60) 発行について</li> </ul>
6.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第35回定時総会</li> <li>1.報告事項               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1号 令和4年度事業報告</li> <li>第2号 令和4年度会計収支決算</li> <li>第3号 令和4年度監事報告</li> <li>第4号 その他</li> </ul> </li> <li>2.協議事項               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1号 令和5年度事業計画案に関する件</li> <li>第2号 令和5年度会計収支予算案に関する件</li> <li>第3号 役員改選に関する件</li> <li>第4号 顧問・参与の委嘱に関する件</li> <li>第5号 その他</li> </ul> </li> <li>・記念講演会               <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ：「創業99年一久大福堂の取り組みと 第28回全国菓子大博覧会北海道について」</li> <li>講師：(株)一久代表取締役社長 久木 利弘 様</li> </ul> </li> </ul>
7.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『勤務医協議会ニュース No.60』発行</li> </ul>
7.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業医研修会（産業医協議会主催）</li> <li>場 所：札幌市医師会館</li> <li>テーマ：「作業行動に起因する労働災害防 止」～転倒・腰痛を中心に～</li> <li>講 師：北海道安全衛生研究所 会長兼所長 池田 和博 先生</li> <li>参加者：272名</li> </ul>
8.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業医研修会（産業医協議会主催）</li> <li>場 所：札幌市医師会館</li> <li>テーマ：「新興感染症流行時の産業医の対応」</li> <li>講 師：産業医科大学産業生態科学研究所 災害産業保健センター 教授 立石清一郎 先生 産業医科大学産業生態科学研究所 産業保健経営学 教授 森 晃爾 先生</li> <li>参加者：153名</li> </ul>
10.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度全国医師会勤務医部会連絡協議会</li> <li>場 所：ホテル青森（青森県）</li> <li>メインテーマ『2024年、変わる勤務医、輝く 勤務医』</li> <li>参加者：鶴間会長、西川幹事</li> </ul>
11.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業医研修会</li> <li>場 所：札幌市医師会館</li> <li>テーマ：「産業医活動の実際」 －職場巡視について－</li> <li>講 師：J R 札幌病院 保健管理部長 佐藤 広和 先生</li> <li>参加者：170名</li> </ul>

11.30	・産業医研修会（産業医協議会主催） 場 所：札幌市医師会館 テーマ：「両立支援～10の課題を整理する」 講 師：産業医科大学産業生態科学研究所 災害産業保健センター 教授 立石清一郎 先生 参加者：115名
12.4	・勤務医委員会・札幌市病院協議会・札幌市勤務医協議会合同懇談会 場 所：札幌市医師会館
6年	・第44回札幌市病院学会 演題数：85題（23医療機関） 参加者 320名
2.3	
3.22	・札幌市病院協議会との合同講演会 場 所：札幌市医師会館 テーマ：「鳥インフルエンザウイルスの鳥と哺乳動物への感染から考えるOne Health」 講 師：北海道大学大学院 獣医学研究院 教授 迫田 義博 先生 参加者：11名
令和6年4月9日現在会員数 178名 （前年度比-8名）	

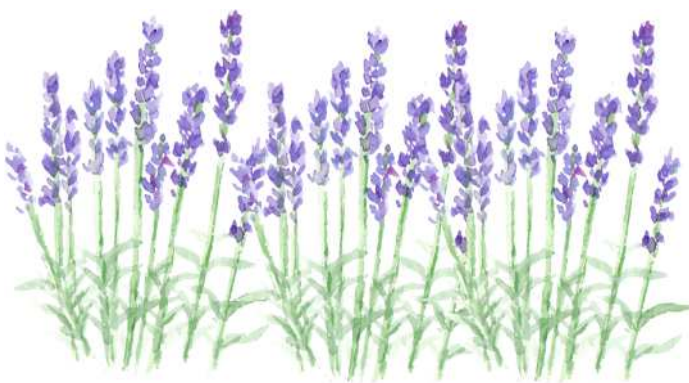
令和5年度札幌市勤務医協議会収支決算報告

【収 入】

項 目	予算額	収入額	増減比	摘 要
会 費	558,000	354,929	-203,071	会費(120名)
札 医 交付金	400,000	400,000	0	札医交付金
雑収入	1,000	20,023	19,023	祝儀・預金利息
繰越金	2,398,395	2,398,395	0	前年度繰越金
計	3,357,395	3,173,347	-184,048	

【支 出】

項 目	予算額	支出額	増減比	摘 要
会議費	500,000	233,000	-267,000	役員会費用弁償 懇親会経費
事業費	800,000	244,400	-555,600	病院学会経費外
通信費	400,000	116,958	-283,042	ニュース発送外
慶弔費	100,000	40,000	-60,000	香典
事務費	100,000	70,000	-30,000	病院学会事務費
予備費	1,457,395	0	-1,457,395	
計	3,357,395	704,358	-2,653,037	



令和6年度事業計画

No	事業項目	予定回数	担当部	備 考
1	総 会	1	総務部	
2	講演会	1	総務部	(例年は総会と同日開催)
3	役員会	6回以内	総務部	
4	部長会	適宜	総務部	
5	学術講演会	1	事業部	2～3月頃病院協議会と合同
6	産業医研修会	1 (主催) 2～3 (共催)	事業部	主催：11月頃開催 共催：産業医協議会と調整して開催
7	勤務医委員会・病院協議会との懇談会	1	総務部 事業部	全国勤務医部会開催後予定
8	病院学会共催	1	事業部	令和7年2月1日(土)開催予定
9	札幌市勤務医協議会ニュース発刊	適宜	総務部	随時発刊予定
10	札医通信執筆	適宜	総務部 会計部 事業部 厚生部	勤務医協議会活動について (ゴルフ大会報告等)
11	全国医師会勤務医部会連絡協議会	1		10月26日福岡県
12	ゴルフコンペ	1	厚生部	病院協議会と合同

令和6年度札幌市勤務医協議会収支予算

【収 入】

項 目	予算額	(前年度)	増減比	摘 要
会 費	534,000	558,000	-24,000	会費(178名)
札 医 交付金	400,000	400,000	0	札医交付金
雑収入	1,000	1,000	0	預金利息
繰越金	2,468,989	2,398,395	70,594	前年度繰越金
計	3,403,989	3,357,395	46,594	

【支 出】

項 目	予算額	(前年度)	増減比	摘 要
会議費	500,000	500,000	0	総会経費外
事業費		800,000	0	各部事業活動等
通信費	400,000	400,000	0	各種会議等開催案内等
慶弔費	100,000	100,000	0	弔慰見舞
事務費	100,000	100,000	0	事務用消耗品外
予備費	1,503,989	1,457,395	46,594	
計	3,403,989	3,357,395	46,594	

